

口腔病理専門医講習会 III (細胞診)

【演題】 口腔領域細胞診－細胞像の理解のために－

【講師】 藤田 修一 (長崎大学医歯薬学総合研究科口腔病理学分野)

細胞診を志す病理医が細胞診を学ぶ上で、最も困惑するのは組織像と細胞像の乖離であろう。例えば、唾液腺 Warthin 腫瘍の腫瘍細胞は組織学的にはリンパ組織を裏装する柵状配列の円柱上皮としてみられるが、穿刺吸引細胞診では核間距離の均一な平面的なシート状配列としてみられる。これは検体の採取・処理方法の違いや観察している方向が異なることで起こる。細胞像と組織像の乖離は口腔粘膜の擦過細胞診でも起こりうる。さらに、細胞診は組織学的構築を明確に把握できないために、得られる情報が組織診より少ない。口腔病理医は口腔病変の組織像に精通しているにもかかわらず、細胞像と組織像の相違や限られた情報が、細胞診の活用や細胞診技術向上の障壁になるのは残念なことである。本スライドセミナーでは唾液腺穿刺吸引細胞診や口腔粘膜の擦過細胞診などの基本的な細胞像を供覧し、組織像との関連を念頭において解説したい。

【略歴】

1985年3月 九州大学歯学部卒業

1985年4月 長崎大学歯学部助手

2002年4月 長崎大学医歯薬学総合研究科口腔病理学分野助手

2005年10月 長崎大学医歯薬学総合研究科口腔病理学分野助教授

2007年4月～現在 長崎大学医歯薬学総合研究科口腔病理学分野准教授

(2001年7月 日本病理学会口腔病理専門医、2003年12月 日本臨床細胞学会 細胞診専門歯科医)

【Title】 Oral cytology –for better comprehension of cytological features-

【Lecturer】 Shuichi Fujita, Dept Oral Pathol, Nagasaki Univ Grad Sch Biomed Sci

When oral pathologists learn cytology, they feel confused about discrepancies between histological findings and cytological findings. The discrepancies are due to the sampling methods, procedures for the specimens and direction of observation different from histological examination. Moreover, cytology hardly provides histological construction of the lesions. It is regret that oral pathologists don't utilize cytology because of the discrepancies and the limited findings. In this slide seminar, I'll show the basic cytological pictures of mainly oral mucosa and salivary gland lesions, and explain their characteristic features making correlations with histological structures.